

鳥取・出雲殺人ルート



[鳥取・出雲殺人ルート 下载链接1](#)

著者:[日] 西村京太郎

出版者:講談社

出版时间:1993-4

装帧:新書

isbn:9784061816701

鳥取砂丘に出現した神秘の蒼い湖には美女の死体が沈んでいた。発見したアマチュアカメラマンは翌日宍道湖で1人の女と出会う。彼女が名乗ったのは湖で発見された死体の女の名前だった。何故偽名を使ったのか。真相を追ってブルートレイン「出雲」で山陰に向かう十津川警部の前に事件は新たな展開をみせる。

作者介绍:

西村 京太郎（にしむら きょうたろう、1930年9月6日 -

）は、日本の推理作家。トラベルミステリーの第一人者で、十津川警部の生みの親として知られている。本名は矢島 喜八郎（やじま きはちろう）。

東京陸軍幼年学校在学中に終戦を迎え、東京都立電機工業学校（現・東京都立産業技術高等専門学校）卒業後、臨時人事委員会（後の人事院）に就職する。11年勤務後に退職し、私立探偵、警備員などを経て作家生活に入る。

初期は社会派推理小説を書いていたが、じきにスパイ小説、クローズド・サークル、パロディ小説、歴史小説など多彩な作品群を発表する。中でも海難事故もの（これについては西村本人が海が好きだったため。十津川警部は大学ヨット部出身という設定。）、誘拐もの（あらゆる犯罪の中で最も知能を要するので推理小説にふさわしいと考えたから）が多かった。日本中にトラベルミステリーというジャンルを示すきっかけとなったヒット作『寝台特急殺人事件』から全面的にトラベルミステリーに移行する。

列車や観光地を舞台とするトラベルミステリーに属する作品を数多く発表しており、シリーズキャラクターである十津川警部は有名である。多くの作品がテレビドラマ化（『西村京太郎トラベルミステリー』、あるいは『西村京太郎サスペンス・十津川警部シリーズ』など）されている。

西村が考えた鉄道などを使ったトリックやアリバイ工作は、そのリアリティが功を奏し根強い人気がある。近年では納税者ランキングの上位に名を連ねる。

オリジナル著作は2012年3月10日発行の『十津川警部秩父SL・三月二十七日の証言』で500冊に達し、その後も新刊の刊行は続いていて、単行本の累計発行部数は2億部を超える。この数字を記録した作家は、日本では2012年現在、西村と赤川次郎の2人しかいない。なお、彼は30代の前期から作家活動が続けているが、著作の90%以上は50歳を過ぎてから刊行されたものであり、作家としては大器晩成型の部類に属していると言える。

目録:

[鳥取・出雲殺人ルート_下载链接1](#)

标签

西村京太郎

评论

西村著作No.206：十津川警部挑战医药界大黑幕。流畅性一如既往，不过没什么意外性。講談社ノベルス的书腰里面写着，为了纪念创刊11周年，向读者推出抽选奖品：赤

川次郎、西村京太郎、山村美纱的特制T恤！真想看看长啥样。

[鳥取・出雲殺人ルート_下载链接1_](#)

书评

[鳥取・出雲殺人ルート_下载链接1_](#)